

# 福岡県立太宰府高等学校 平成22年度 学校関係者評価表

福岡県立太宰府高等学校長

福岡県立太宰府高等学校 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

学校経営計画 (4月)				評価(3月)		自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価		
学校教育目標		志を持って意欲的仁学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい宰校生の育成を図る。 (1) 知・徳・体の伸長と調和のとれた、情操豊かで進取の気概に充ち国際性に富み、将来国家社会に貢献できる人材の育成を目指す。 (2) すべての生徒をわが子として育む学校を目指す。				評価(総合)		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		自己評価は		
1 成果 (1) 生徒の実態に応じた学習指導方法の工夫や授業内容の改善 (2) 生徒の進路に関する指導方法の多様な展開と充実 (3) 部活動、生徒会活動の活性化 (4) 学校、家庭、地域社会の連携のとれた教育活動		1 生徒指導に基盤をおいた教育の徹底		ア 基本的な生活態度を確立し、規範と責任を自覚し、道徳的実践力を持つ人間を育成する。 イ 全教育活動をとらして師弟同行を旨とし、生徒自身に本校に学ぶ喜びと誇りを持たせ、郷土を愛し豊かな文化を創造する心情を育む。 ウ 生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自主性を培い、併せて公共の精神を貴ぶ社会の一員としての資質や態度を高める。 エ 生徒の現状を的確に把握し、適切かつ迅速に対応する指導体制を確立し、組織としての指導力の向上に努める。		A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である		
2 課題 (1) 教職員の指導力の向上と指導方法の更なる工夫・改善 (2) 生徒の進路意識の早期確立を目指したキャリア教育の充実 (3) 通学マナー向上と安全教育の徹底		2 基礎・基本を重視し学習意欲の向上を目指す学習指導の徹底		ア 基礎学力の定着を図り、全ての生徒が自ら意欲を持って学習する態度を育成する。 イ 校内各部署の連携を深め、不断に授業内容の充実改善に努め、個々の生徒の習熟の程度に応じた教科指導を工夫し学習効果を高める。 ウ 新学習指導要領に基づく新たな学習指導計画を研究し立案する。		B		
		3 生涯にわたる「志」を育み、自己実現を目指す進路指導の構築		ア 3年間を見通した本校における体系的、組織的進路指導計画を作成する。 イ 生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探索できる指導体制構築と、具体的実践を行う。 ウ 生徒各自の多様なニーズに応じた進路情報を収集し適切に提供する。				
		4 本校教育への理解をさらに深める広報活動の充実		ア 本校の教育活動や特色ある教育活動を外部へ適切に公開すると共に、情報を迅速・的確に発信し地域の理解と信頼を獲得することで地域社会の教育力との連携を図る。				
		5 安全な教育環境の整備と健康・安全に関する指導の徹底		ア 健康診断後の治療勧告等の指導により生徒の自己健康管理能力の向上を目指す。 イ 施設設備の安全点検等により教育環境を更に整備するとともに、生徒への安全教育を推進し、交通マナーや危機管理意識の向上を目指す。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教科指導	1 生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学力向上を図る。	ア シラバス等を活用して学習オリエンテーションを行い、継続して学習習慣の確立や授業規律の定着を図る指導を行う。 イ 生徒の家庭学習時間確保のため、教科・学年が連携する。定期的に学習時間調査を行い、その結果を職員で共有し、分析を行う。 ウ 調査毎に結果の分析・検討会を教科毎に設けることで、生徒の実態に応じた指導方法、授業内容の工夫・改善を行う。 エ 授業方法の改善を進めるための啓発(資料提供等)を行う。	A	B	B	1 学習オリエンテーションについては、特に新入生の学習方法定着のために効果が大きい、特別時間割の組み方については工夫する必要がある。 2 生徒の学習時間調査を定期的に行い、集約結果も職員や生徒に提示したが、その活用が教科や学年で一層なされるようにしたい。学習時間を増やすために、予習復習のさせ方、家庭学習の出し方など継続して検討し、生徒に指導していく必要がある。 3 授業改善の一環として授業アンケートを行い、集約結果を職員に配付した。前期よりも後期は教科担任に工夫改善の跡が見られるが、なお一層の生徒の実態に応じた指導が必要である。 4 各授業や特別活動における道徳目標についてはほぼ達成できていると思われるが、生徒への動機付け・意識付けは更に必要である。	A	・道徳教育は生活する上で大切である。これからも取り組まれるようお願いする。 ・家庭学習の習慣化のための指導を家庭と連携しながら取り組んで欲しい。 ・学習活動の意欲が高まる指導と共に環境の整備に取り組んで欲しい。
	2 本校の実態に応じた教育課程を編成する。	ア 新学習指導要領に基づく学習指導要領の編成準備を行う。 イ 教科や特別活動の時間の中で道徳教育目標が達成できるように取り組む。	B	B				
	3 授業環境の整備に努める。	ア 教材の持ち帰り指導、ロッカーの整備、教室の美化等に積極的に取り組む。 老朽化した机・椅子の更新も計画的に出来るようにする。	B	B				
	4 授業時間の確保に努める。	ア 年間を通しての授業時間の確保や授業時間の均等化を図る。授業振替措置を徹底して自習の時間をなくす。	A	B				
進路指導	1 進路実現をより確実なものとするために学力の向上を図る。	ア 課外授業をより効果的なものとするために、年間を見通した計画を立案し実施する。校外模試については実施後に「模試結果検討会」を行い、授業へフィードバックすることで授業の精度や効果を高める。	A	A	B	1 年度当初に年間を通じた課外・土曜セミナー計画を提示することができた。土曜セミナーについては部活動の新人大会が集中する10月の実施には配慮が必要で、代替措置を講ずる。 2 教員の熱心な指導で意識を高め意欲的に進路実現に取り組んでいた素直な生徒が多く見受けられた。課外授業や土曜セミナー・諸行事をより効果的なものとし、より進路実現の精度を向上させる。 3 校内で実施した大学説明会には多くの生徒が参加し、昨年より受験者が増加した。説明会の量的拡大を図る。	A	・厳しい就職状況のなかで全員就職をさせることができて良かった。今後も、粘り強く指導してほしい。 ・一人一人の進路実現のために、さらに工夫した指導をして欲しい。
	2 進路説明会などを通じて進路意識を高め、進路意欲を高める。	ア 3年次の受験のポイントなどを説明し、生徒・保護者に対して高校生活のあり方について再点検の機会とする。併せて進路実現に対する希望・意欲を高め、高校生活全般に対して意欲的に取り組む姿勢を養う。	B	B				
	3 進路指導のさまざまな取り組みの再構築をはかる。	ア 課外授業や土曜セミナーの実施計画、推薦入試に関する面接指導や小論指導の指導のあり方、総合学習やLHRのより効果的な活用を各学年・教務部などと摺り合わせを行いより効果的なものとする。	B	B				
人権教育	1 人権を尊重できる生徒の育成を図る。	ア HRを利用した人権教育授業を通して、アサーティブトレーニングなどの人権スキルを学ばせる。 イ 様々な教育活動を通して、自尊感情の育成を図る。	B	B	B	1 HRを利用した人権教育授業では、視聴覚教材を活用し、より深く人権感覚について学ばせることができた。ただ、第2学年の歴史のところはなかなか難しく、さらに教材を工夫する必要がある。 2 参加型の職員研修を実施できたのはよかった。さらにさまざまな形態の研修を工夫したい。	A	・挨拶については、登校時は90%以上ができています。最近は大きな声で挨拶ができています。 ・常日頃から人権を大切に教育に取り組んで欲しい。
	2 人権を尊重できる環境作りに努める。	ア 挨拶がきちんとでき、安心して通える学校環境を作る。 イ 研修などを通して教員集団としての力量を高め、生徒が安心して、自信を持って学べる学校環境を作る。	A	B				
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立(自己指導能力の育成)	ア 担任・副任と連携し遅刻・欠席を0.4%以内に減少させる。	A	B	B	1 多くの生徒が基本的な生活習慣の確立を計る事ができているが、一部の決まった生徒が改善できていない。継続的な指導を徹底したい。 2 全職員による登下校時の交通安全指導と交通安全委員会の活動により、昨年度に比べ地域からの信頼を得ることができた。しかし、2月に大きな交通事故が発生した。常に安全な対応と行動が実践できるような交通安全指導の工夫を計りたい。 3 生徒会が中心となり学校行事はもちろん、高等視覚特別支援学校との交流やボランティア活動を積極的に実施できた。 4 部活動への加入率が76.8%(5/1現在)と大幅に上昇したことにより、学校に活気が出てきた。県大会へ出場する部活や九州大会で優勝し全国大会へ出場する部活も出るようになった。	A	・地域から太宰府高校生の交通マナーについて苦情が寄せられているが、車自身も法規を守っていないことがある。今後も地域社会と連携し尚一層の交通法規遵守指導をお願いする。一般社会皆で取り組む問題である。 ・学校周辺地域での喫煙等はなく、生活態度は良い。 ・学校に活気が出るので運動部文化部ともに部活動に頑張ってもらいたい。
		イ 定期的に風紀検査を行い、全職員で徹底した指導を行う。	B					
		ウ 生徒会の生徒を中心に挨拶運動を展開し、気持ちよく挨拶ができる学校づくりを目指す。	B					
	2 生徒会活動の充実	ア 積極的に各種委員会を開催し、活性化を図る。	B					
		イ 生徒会が中心となり、体育祭・飛梅祭などの学校行事を成功させ伝統あるものにしていく。	A					
		ウ ボランティア活動を推進するため、地域社会への広報活動を図りながら近隣校との交流を深める。	A					
3 交通安全指導の徹底	ア 交通安全運動を展開することで、自分の安全を守ることや地域住民の方々への迷惑にならぬよう交通マナーを身につけさせる。 イ 全職員による朝課外前及び下校時の交通指導を行う。 ウ 5月と10月に自転車安全点検指導を行う。	B	B	B				

保健指導	1 生徒自身の健康管理能力を育成する。	ア 健康診断の結果について早急に治療勧告を行い、早めの受診を呼びかける。 イ 熱中症予防講習会を一学期末に実施し、生徒の健康管理の意識を高める。 ウ 健康推進事業として、産婦人科と精神科の個別相談を校内で実施する。	A A A	A	A	1 心の健康相談については年4回実施したが、次年度も実施回数の確保に努め学校・保護者・医療機関との連携を図りながら対応できるように配慮している。熱中症予防やAEDの講習会については来年度も実施し、生徒の健康に対する意識を高めたい。 2 月毎に変わる掃除区域を年間固定の区域に変更するなど改善を図る。日頃から清掃活動を徹底させるとともに老朽化が進んでいる箇所については改修工事を行い、環境整備に努めたい。3 来年度の薬物乱用防止教育については内容や実施回数を検討し、効果的な指導を実施したい。	A	・清掃活動や近隣校との交流等の学校行事は、地域社会からの信頼を醸成する上で大切である。 ・「薬物乱用教育」を実施している理由を説明してほしい。
	2 清掃活動を徹底させ、教育環境の向上を図る。	ア 全職員による清掃監督指導により、掃除の徹底を図る。 イ 掃除用具の補充を円滑に行い、清掃活動を充実させる。 ウ 生徒会による美化コンクールを実施し生徒を主体とした環境整備を行う。	A B B					
	3 薬物乱用防止教育の充実を図る。	ア 3年間を見通した指導内容を検討し、効果的な指導を行う。 イ 学期毎に年3回実施し、生徒に薬物を断固拒否する姿勢を育てていく。 ウ グループワークなど生徒参加型の活動を積極的に取り入れる。	A A B					
職員研修	1 教職員の力量形成のための職員研修を推進する。	ア 本校経営方針に基づき、全職員対象の研修会を開催する。 イ 他の分掌と連携した課題研修を実施する。 ウ さわやか委員会と連携した教育懇談会を開く。	A B B	B	B	1 本校の教育課題解決に向けて、まずは多様な生徒の実態把握に努めて授業の工夫・改善を目指し、併せて活力に充ちたホームルーム経営を実現すべく指導力のアップをはかる。これが次年度の重点目標である。そのために、研究授業の工夫、本校教職員の実践発表の新設、さらにはホームルーム活動などの特別活動に関する授業研究も取り入れる方向で検討したい。とくに、教科指導の研修については、半日を費やして全教科一斉に実施し外部から助言者も招き、集中して研鑽する機会を設けたい。	A	・教員の授業力向上などの研修をさらに進めて欲しい。
	2 授業力アップのための研修を計画的に行う。	ア 指導力向上のため教職員同士の相互授業参観を推進する。 イ 「意欲を育てる授業」をテーマに全教科の研究授業を実施する。 ウ 教師個々人の授業研究を支援する。	B B B					
	3 学校内外の研修を促進し、教育力向上に努める。	ア 10年研などの校内研修プログラムを策定・推進する。 イ 教育センターなどの積極的参加を促進する。 ウ 教育実習を主管し、実のある研修とすべく指導に当たる。	B B B					
図書	1 図書館利用の促進	ア 学習情報センターや読書センターとして機能できるよう資料の収集に努める。 イ 広報活動に努める。 ウ 授業やLHRでの図書館利用を促す。	B B A	B	B	1 教科会や職員全体への呼びかけによる、「生徒に読ませたい本」の紹介を行う。 2 「風つうしん」(生徒向け図書館広報誌)の発行方法と内容とを検討する。 3 朝の10分間読書の参考プリントは継続して発行する予定であるが、生徒や職員向けのPR活動を行いつつ、目に付きやすい案内方法を検討する。 4 新入生向けの図書館オリエンテーションは継続して実施するが、OA機器を利用して、自分が探したい書物の見つけかたの指導も行えるようにしたい。	A	・2の「風つうしん」の発行はこれからも続けてほしい。4についてはぜひ実行してほしい。 ・校誌「太宰府」や「ムービング太宰府」には教師及び生徒の一年間の校内での活動状況や校外でのボランティア活動等について集約されており良いと思う。
	2 図書委員の育成強化と委員会活動の活性化	ア 図書委員としての自覚と責任を持たせ、カウンター当番・図書整理・広報活動を確実に行うよう指導する。 イ 「風つうしん」の作成を指導助言し、定期的な発行に努め、より自主的な広報活動を進めていけるよう、活動を促していく。	A C					
	3 「朝の10分間読書」実施に向けてのサポート体制の確立	ア 朝の読書週間の定着を図り、蔵書の充実・図書の紹介に努める。 イ 図書を用意していない生徒のために、新聞コラムなどをまとめたプリントを作成し配布する。	A A					
	4 校誌『太宰府』の充実	ア 従来の研修・部活動の記録としての役割とともに、個々の生徒の活動の記録についても収録していく。	A					
芸術科	1 芸術科教育の充実に努める。	ア 国際性、社会性の涵養のため、国内研修等をはじめとする芸術科の教育内容を充実させ、本格的指導を定着させる。	B	B	B	1 1年生においては芸術科教育の定着のために徹底した個別指導を行い、教育目標へ向けてさらなる指導を行った。ただ不適応入学の生徒については指導が困難であり苦慮した。今後なんらかの方策を再考したい。 2 2年生においては科の中心学年として学習面や制作面において模範となるべき指導を図った。その結果、昨年に引き続き高文連全国大会、九州大会代表や全国規模の大会で金賞を獲得した。学力面においてはやや伸び悩んでいる。 3 3年生においては進路に即した指導を行い、例年並の成果をおさめた。卒業制作展は早期から運営の指導を行い、2千人を超す入場者となり成功をおさめた。このような活動成果を中学生進路相談事業や体験入学、実技講習会、進路相談会等で徹底して行い、継続することが重要である。	B	・地域の子供が、芸術科の催しに参加したことで芸術科受験を希望している。この催しは有意義であるので続けてほしい。 ・芸術科生徒が部活動のため下校時間が遅いことが心配される。 ・十分評価に値する活動が行われているので、自己評価はAで良いのではないかと。
	2 希望に沿った高い目標の進路実現を目指す。	ア 保護者、地域が要求する高い進路目標を実現させるため、科独自の指導体制を作り、一斉に取り組む。そのために 実技指導、公募展出品等、実績を積み重ねる。芸術科生全員が何らかの 展覧会で入選を果たし、95パーセントを上回る入選率を目指す。 イ 多様な進路目標に対応する。進路実現達成率 90%を目標。	B B					
	3 広報活動に努め、芸術に意欲を持った生徒を募る。	ア 芸術科の教育に応える意欲ある生徒獲得のため、生徒職員一丸となり本校芸術科(美術・書道)の教育内容の広報に努める。 イ 各地区中学生進路相談事業へ積極的に参加し、本校の芸術教育について周知徹底に努める。 ウ 体験入学のみならず、複数の実技講習会、進路相談会等を実施し教育内容を理解してもらう。	A A A					
		1 国際理解教育を推進し、国際人としての資質を高める。また英語運用能力を高めるため、専門科目の内容を充実させる。	ア 海外研修・サマーキャンプ・英語劇・暗唱大会・スピーチ大会・デバート大会などのコース行事に積極的に取り組ませる。 イ 専門科目はシラバスに従い授業を進めていくが、生徒の実態に応じて随時見直しを図る。 ウ 本校生徒の留学を推進し、留学生も積極的に受け入れる。					
英語コース	2 希望進路実現に努める。	ア 大学進学(海外も含む)、専門学校、公務員、就職と多様な希望進路を実現するため、きめ細かな指導を行う。 イ 本校在学中に留学した生徒のため、適切な進路指導を行う。	A B	A	B	1 コース行事に関しては、生徒の実態や教員の配置などを考慮しながら取り組みを行う。場合によっては精選しながら質の高いものを作り上げていく。 2 専門科目は大体のシラバスは出来上がっているが、生徒の能力を考え最大限に引き上げる指導を随時検討していくようにする。 3 長期留学をする際には、しっかりとした団体を選ぶように生徒に確認する。慎重に選択することが大切である。 4 大学進学を希望する生徒が多いが、推薦入試に流れる傾向が強いので、一般入試で勝負できる生徒を増やす。 5 英検は初めて準1級の合格者が出たので、生徒にもよい刺激となっている。2級の合格者をもう少し増やせるように何らかの手立てを考えるようにする。 6 広報活動は今年も積極的に取り組んだ。次年度もいろんな先生方、中学校の先生方、保護者、生徒、卒業生、在校生などから情報を集めながら、よりよい形で広報活動を進めていく。	B	・生徒の希望進路が多様な中、きめ細かな対応や指導ができていると思う。 ・英語コースとして検定合格など、学習した成果を残せるような指導をもっと施して欲しい。 ・十分評価に値する活動が行われているので、自己評価はAで良いのではないかと。
	3 実用技能検定試験やGTEC試験等の資格試験の受験を奨励する。	ア 英語コース生は「実用英語技能検定試験」を年3回全員受験させる。コース全体で2級取得20名以上を目指す。 イ 1、2年生にはGTECを受験させ、英語のコミュニケーション能力の伸長をみる。	B A					
	4 広報活動を活性化し、優秀な意欲ある生徒の獲得に努める。	ア 体験入学、英語コース授業体験、APU(立命館アジア太平洋大学)ツアー、中学生暗唱大会の充実を図り、英語コースをより理解してもらう。 イ ホームページ上の「英語コース通信」をこまめに発行し、リアルタイムな情報を提供する。 ウ 在校生を使って英語コースをアピールする。	A B B					

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策(項目を設定して、箇条書きで記入すること。)

- ※
- 本校教育活動の全領域で基礎・基本を徹底させ、生徒が意欲的に学ぶための指導力向上、授業改善に努める。生徒各自の進路の第一希望が実現されるよう継続的、計画的指導体制を築く。
  - 芸術科、英語コース、普通科医療系進学コース等特色ある教育活動の一層の充実発展に努める。また、引き続き70%を超える部活動入部率を目指し、活力ある教育活動を展開する。
  - PTA、同窓会、教育振興会との連携を深め、当評価委員会や学校評議員の評価・助言をいただきつつ、合わせて地域周辺の方々とともに、学区に期待され信頼される学校づくりに努める。

評価項目以外のものに関する意見

特になし